牛を飼養する皆さまへ
吸血昆虫対策を実施し、
ランピースキン病などの感染を防ぎましょう！

＜ランピースキン病（LSD）＞

ランピースキン病ウイルスによる牛の伝染病。主に蚊、ハエ、ダニの媒介による機械的伝播、感染した牛の移動により感染が拡大します。

●症状

全身の皮膚の結節や水腫、泌乳量の減少、発熱等の症状を呈し、生産性に影響を及ぼす病気です。

写真提供：モンゴル国中央獣医学研究所

●これまでの国内発生状況（令和7年７月現在）

令和6年11月6日～12月26日までの間

22農場、227頭の発症（疑症牛を含む）が確認されました。

以降、現在までの発症は確認されていません。

＜牛伝染性リンパ腫＞

牛伝染性リンパ腫ウイルスによる牛の伝染病。アブやブユなどの吸血昆虫、出血を伴う処置、感染牛の乳汁などからも感染が広がります。

●症状

潜伏期間が長く、数年は症状が認められません。持続性リンパ球増多症になると、免疫機能が低下するため病気にかかやすくなり、経済的損失の要因となります。発症すると、食欲不振、削痩、体表リンパ節の腫脹、乳量低下などが見られます。

車両がウイルスを運ばないために

・農場に出入りする全ての車両は洗浄・消毒、殺虫を徹底

・車内に入り込んだサシバエ等も確実に殺虫

サシバエ等は暖かい車両に集まりやすい

牧草ロールや敷料などにもサシバエ等が入り込む可能性があるので搬入時に確認！　県内農場に侵入する可能性も！

特に、農場を中心に生活するサシバエへの対策が重要。福岡県の発生農場では、サシバエの少ない農場内では感染拡大が抑えられていました。なお、特に冬前のハエ１匹は来シーズンの１万匹に相当すると言われるほど対策が重要です。

写真提供：住化エンバイロメンタルサイエンス(株)

人がウイルスを運ばないために

・農場ごとに専用の衣服、長靴（ブーツカバー）交換を徹底

・注射針、人工授精用器具等は確実に一頭ごと交換 又は消毒

・聴診器等、皮膚に接触する器具も適切に消毒を

山梨県西部家畜保健衛生所　電話・・・0551-22-0771　FAX・・・0551-22-6728
韮崎市本町３－５－２４　夜間、土日・休日の連絡は・・・090-5564-1018

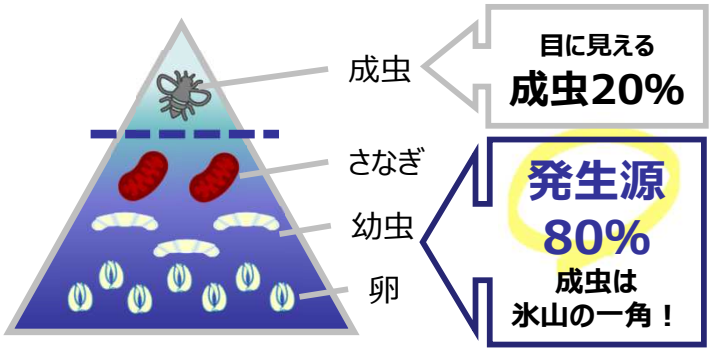
サシバエ等の活動が活発な時期です！

過去発生のなかった国でもLSDの発生を確認

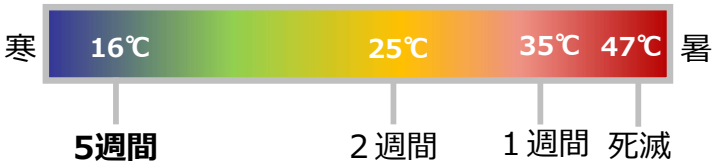
引き続き警戒が必要

夏は短期間で卵から成虫に！

成虫がいる＝幼虫はもっと潜んでいる



温度とサシバエが卵から成虫になるまでの発育日数の関係



冬季は気温が低いので、発育速度が遅い！

幼虫対策をすれば、殺虫剤を撒く回数も減少！

1．幼虫対策は、堆肥等の管理とIGR剤の散布！

堆肥の切り返しは
隅々まで！

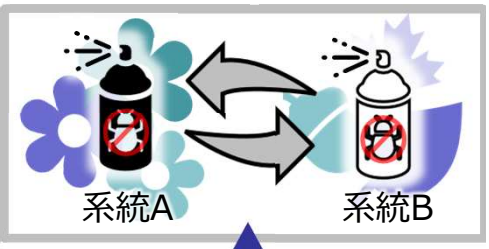
牛舎隅など牛が踏まない・糞の取り残しがある場所、
カーフペンなど子牛のいる牛床にIGR剤を散布！

つなぎ牛舎は
バーンクリーナーへ散布！

2．成虫対策は、防虫ネットや殺虫剤ローテーションで！

地面や床から２ｍは防虫ネットで
覆えるようにしましょう！
隙間や穴がないか確認を！

殺虫剤は
サシバエが飛ぶより
上を狙って噴霧！



殺虫剤はローテーションを！
噴霧量が十分か確認！

3．対策は地域ぐるみで！関係業者もご一緒に！

写真協力：鹿児島県内酪農家、（独）家畜改良センター宮崎牧場、住化エンバイロメンタルサイエンス株式会社、エランコジャパン株式会社　※九州農政局資料を一部改変